

平成28年度 在宅介護支援センター事業報告（期間:平成 28年 4月 ～ 平成 29年 3月末）

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献 の視点	市内クリーン作戦	ペーロン城周辺のゴミ拾い	実施回数	年2回	4/12、10/12実施	こすもす倶楽部赤ジャンパーを着用し、ペーロン城周辺（工和橋北交差点～ポート公園前まで）の歩道について、ゴミ拾いを実施した。後日、他事業所や利用者家族様から、ゴミ拾いをしている場面を見かけたと声を掛けていただくことも度々あり、地域貢献活動として徐々にではあるが根付いてきている。
収支 の視点	担当件数の維持	適切な件数（一人当たり月35件未満）を維持する	担当件数	稼働率の維持	・4月～8月 31件 ・9月～3月 23件	・常勤換算のケアマネジャーは、4月～8月は3名体制、9月～3月は4名体制となった。平均担当件数については4月～8月が31件、9月～3月は23件となった。 ・新規契約は30件あった。内訳は、包括支援センターからの紹介8件、家族からの依頼8件、他事業所からの紹介6件、病院からの紹介3件、在宅介護支援センターからの紹介3件、夫婦一方を既に担当していた2件となっている。 ・契約終了は39名あった。内訳は死亡17名、こすもす特養入所5名、他施設入所16名、サービス終了1名となっている。他施設入所については、市内特養4名、市外特養2名、市内サービス付き高齢者住宅3名、市外サービス付き高齢者住宅2名、小規模多機能型居宅介護事業所4名、市外老人保健施設1名となっている。施設入所に当たっては、まずあいおい福祉会事業所を紹介しているが、希望される時期に空きが無く他施設へ入居される結果になっている。
利用者の 視点	他事業所との連携強化	サービス事業所との連携が図れているか等のアンケートを実施	連携達成度	70%	未実施	アンケートは実施出来ていない。普段からの“顔の見える関係づくり”は大切であるため、実施している事として、①各サービス事業所への随時訪問と担当利用者についての情報提供・相談 ②提供票を介護サービス事業所へ持参する ③介護支援専門員協会相生支部定例会への出席及び研修会への参加 ⑤ケアカフェ（地域住民や医療者、介護者、福祉者をはじめ、ケアに興味のある人々の集まり）への自主参加 等を行ない、新規利用者の紹介に繋がるような関係づくりに努めている。
業務プロセス の視点	ケアマネジメント課程の見直し	コンプライアンスの視点に沿って、利用者ごとの必要書類や記録の見直しを実施	実施回数	年1回	必要時随時	年1回時間を設定しての見直しは実施出来ていないが、つまづきがある度に随時チェックし改善するように心掛けている。
学習と成長 の視点	個人の資質向上	・個人が目標を設定し研修会等へ参加する	個人目標 設定回数	年2回	約年6回	介護支援専門員協会相生支部の実施する研修会に随時参加し、個人のスキルアップにつなげた。また、兵庫県が開催する障害高齢者（発達障害・知的障害・身体障害・精神障害）について、介護保険に切り替わっても切れ目のないスムーズな支援の継続ができるよう研修に参加し理解を深めた。主任介護支援専門員との振り返りの時間については、日にちを設定せず日々の業務の中でその都度実施し、迅速にケース対応できるようにしている。
		・主任介護支援専門員との振り返りの時間をもつ	個人目標 設定回数		随時	